

# 前橋育英新聞

2019年  
6月17日  
第2号  
発行  
前橋市  
編集  
編集  
広報・宣伝部

# インハイ予選、初の栄冠

## 前橋育英女子ソフトボール部

### 宿敵、相次ぎ破り これまでの悔しさバネに

群馬県高校女子ソフトボールのインターハイ予選が6月8日から始まり、前橋育英は順当に勝ち上がり、準決勝で宿敵、健大高崎と対戦し激闘を制した。決勝戦は総体で黒星を喫した市立太田と戦い、5対1で勝利、創部以来初のインターハイ切符を手にした。



優勝を決め喜ぶ育英ナイン

てきたものの、インターハイ予選というビッグゲームに多少の不安を残した。しかし、今年の前橋育英は違った。先輩部員の悔しさを胸に、さらには、いつしか「絶対負けはない」という「勝利」への執念が、日々の練習で身に染み付いたのだ。

楽しみながら

### 「勝利」への執念実る 逆境を全員でカバ

これまでは、一つのエラーで崩れるパターンだったが、投手、野手は耐え、そして、それを跳ね返す打線、まさに全員でカバーし合う体制

### 編集部窓

発行ペースは決まっていますが、前橋育英ソフトボール部の号外は今年に入って2回目です。早いペースですね。それだけに、前育ソフト部は頑張った証ですね。

保護者の視点で新聞を制作しています。多少のご無礼はご了承ください。引き続き、ビッグゲームを制した際は号外を出しますので、皆さん頑張ってください。

ソフトボール部応援団より

し、このスタイルこそが前橋育英ソフトボール部。そのチームが、群馬県ナンバーワンチームにのし上がったのだ。

実際の所、前橋育英ソフトボール部には、生ぬるさはない。行動には多

市立太田戦・・・。それは昨年にさかのぼる。新人戦ではタイムブレークにもつれ

### 昨年からの市立太田戦

込み敗戦。毎年同様に大きな壁に、ぶち当たる。そして、今年の春季大会では決

予選では再び決勝戦で市立太田と対戦。エラーで涙をのんだ。そしてインターハイ予選決勝。前大会と同カードとなり、これが4度目の正直。気迫あふれるピッチングを見せた左腕が、気合

いと根性で相手打線を抑さえ、打線も奮起。押せ押せムードの前橋育英はスタンドからの応援も追い風に、勝負を決めた。7月下旬、宮崎で開かれる本大会に出

### 一戦ごとに成長手ごたえ

のびのびと」。周囲から見れば、生ぬるいとか、そんな声がかかってくる。しか

### 最弱から最強へ 優勝旗に名を刻む

「楽しみながら、優勝旗に名を刻む」という記念すべき年の優勝旗に前橋育英の名を刻む事は大きな意味を持つ。



原先生（写真左）原口先生（写真右）の胸上げの瞬間



少の、のんびり感はあるが・・・（笑）前橋育英と言えば、野球部やサッカー部は、超がつくほど全国的にも名前が知られている。その冠のおかげで、ソフトボール部も、そこその知名度はあった。しかしながら、実績不足という懸念材料が付きまといっていた。それだけに、今回のインターハイ予選優勝という2文字は、とてつもなく大きい。昨年の新チーム結成以降、今日まで、練習試合数は過去最高を記録。総勢40人を超える選手たちは、地道に日々の練習にも励んでいた。

野球部には「凡事徹底」というテーマがあるが、まさにその通りで、当たり前のことを徹底して行う。その積み重ねが今日に至ったのは言うまでもない。

近々、校舎にインターハイ出場という大きな垂れ幕がお目見えする。夢に描いてきた光景が今、現実のものになる。



叶えなきやいけなない夢もある

### 見たことのない全国の舞台

「叶えたい夢がある、叶えなきやいけなない夢もある。インターハイ出場は自分たちだけの夢じゃないんですよ。先生はもちろん、これまで支えてもらった両親や周囲の関係者の皆さんのために・・・。だからインターハイ出場という夢を叶えなきやいけなないんですよ。今、こうして前橋

育英ソフトボール部はインターハイ出場権を手にした。「今年こそは、今年こそは」と毎年思い続けてきた。ついに、この日がきた。その光景は一生忘れないであろう。「このメンバーで、一日でも長くソフトボールがしたい」。振り返ると順風満帆な道のりではなかった。当初は

## インターハイ県予選優勝



## 思い出のキャッチボール 保護者の想い

宿敵を破ったのインターハイ予選の栄冠はともうれしい。最後の最後で、決めた(全国)ことは、選手たちにとって大きな自信につながる。努力は必ずしも実るわけではないが、チームとしてみれば、最高の形を描くことができたように見えた。高校ソフトにこれだけ燃えさせてもらったことへの感謝が大きい。

泣いたり笑ったり、あつという間に過ぎ去った年と数ヶ月でした。まだ小さかった頃、小さなグロブでキャッチボールをしたことを今でも覚えています。あれから数年が経ち、大きく成長しました。またいつの日か、キャッチボールをしよう。いつもと変わらぬ朝を迎え、送りの道中。特に言葉を交わすこともなく、最後の一番への期待を膨らませて

泣いたり笑ったり、あつという間に過ぎ去った年と数ヶ月でした。まだ小さかった頃、小さなグロブでキャッチボールをしたことを今でも覚えています。あれから数年が経ち、大きく成長しました。またいつの日か、キャッチボールをしよう。いつもと変わらぬ朝を迎え、送りの道中。特に言葉を交わすこともなく、最後の一番への期待を膨らませて



## 声高く、勝機を呼ぶ 大舞台で育英魂



### 最高潮の盛り上がり

全員が好調なことはありえない。一人が不調であれば周囲がカバーし合う。これが、団体競技の醍醐味であって、観るものを魅了する。「感謝の気持ちをプレーに込めて、一本贈るよ」。これから前橋育英ソフトボール部は、未知の世界へ一歩、踏み込むことになる。経験したことのない全国の舞台。「どんな景色なのか、しっかりと、この目で見てきます」。群馬県制覇という夢を叶え、今度は全国

に挑む。一戦必勝あるのみ。群馬県代表として・・・。3年生にとっては最後の大会。「まだ実感はないけれど、楽しみながら、のびのびと、全国大会に挑んできたいと思います」。例年通り、暑い夏がやってくる。今年の夏は、これまでになような熱く盛り上がる、ひと夏になりそうだ。あつという間に過ぎ去ろうとしているソフトボール生活。まだ、夢の続きを見させてもらいます。